

「今月の1枚」

ノハカタカラクサ (ツユクサ科ムラサキツユクサ属) *Tradescantia flumiensis*



写真1 ノハカタカラクサ 2017年5月18日 高知市針木にて撮影

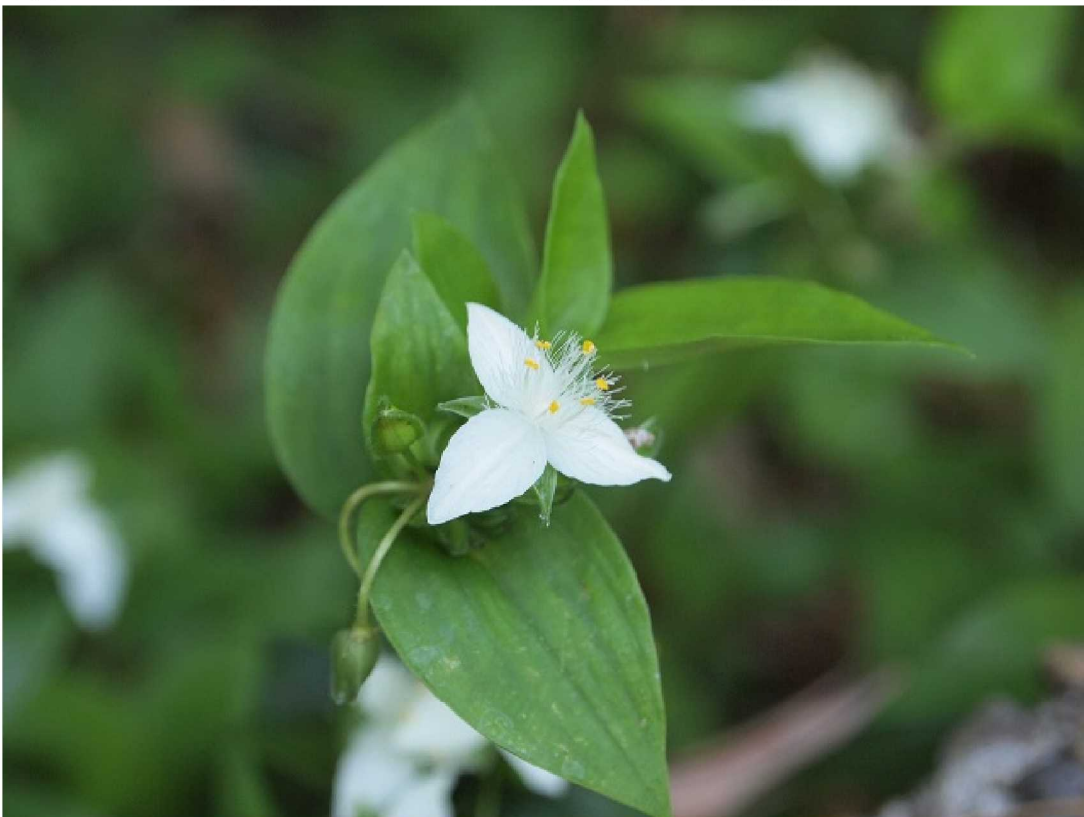


写真2 ノハカタカラクサ 2017年5月18日 高知市針木にて撮影

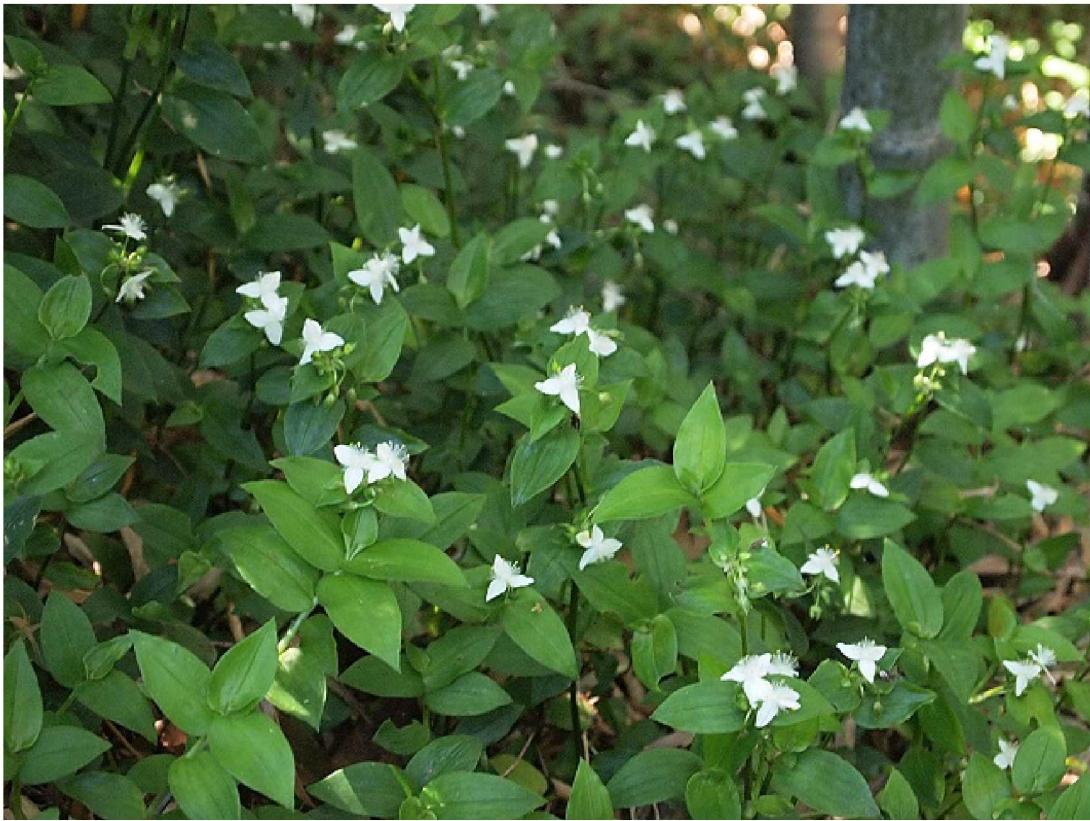


写真3 ノハカタカラクサ 2017年5月18日 高知市針木にて撮影

南米原産の多年草で、別名「トキワツユクサ」と呼ばれます。本州中部以西の暖温帯のやや湿った林下や道端、民家周辺で5～8月に写真のような白い花を咲かせます。

原種は、昭和初期に渡来し、観葉植物として温室で栽培されていたシロフハカタカラクサと考えられています。“シロフ”は白い斑が入っていることを意味し、葉には白色の縦じまが入るのですが、放置すると白い斑を失って葉が緑色になることが多いため、シロフハカタカラクサが変化してノハカタカラクサになったと推測されています。

野外でみられるノハカタカラクサの茎の色には赤紫褐色と緑色のものがあり、緑色のものは葉や花のサイズがやや大きくミドリハカタカラクサとして区別される場合があります。この区分でいけば、写真のものはミドリハカタカラクサと考えられます。

参考資料

原色日本帰化植物図鑑（保育社）

参考にしたホームページ

国立環境研究所侵入生物データベース、三河の植物観察

（写真・文：酒井寿夫 2017年5月18日 高知市針木にて撮影）

（No.270 2017.6.7 掲載）